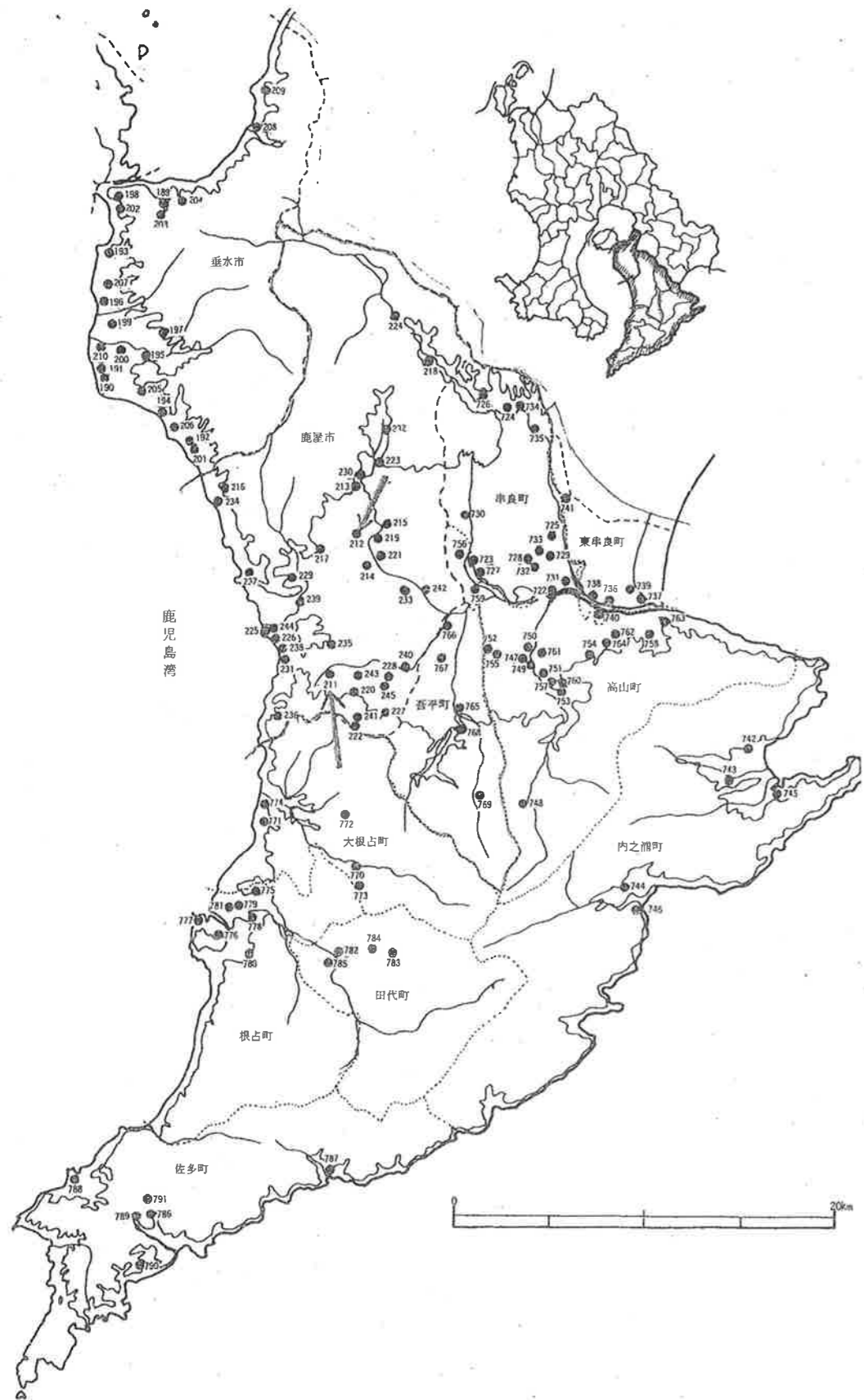


大隅国鹿屋と周辺地域城配置図

『鹿児島考古 第28号』中世城館分布図(6)第31図による

鹿児島県内中世城館跡一覧表



番号	名称	所在地	立地	備考
0189	入船城	牛根城山	丘陵	
0190	尾迫城	浜平尾迫	丘陵	
0191	葛迫城	浜平城内	丘陵	
0192	古今城	新城感王寺	丘陵	
0193	崎山城	海鶴崎山	丘陵	
0194	白石城	新城城石	丘陵	
0195	高城	高城城格 他	丘陵	
0196	垂水城	市木成山	丘陵	
0197	田上城	田神田上	丘陵	
0198	早崎堡	牛根早崎	丘陵	
0199	林城	田神上馬場 他	平地	
0200	垂水本城	本城上本城 他	丘陵	
0201	新城	新城城山	丘陵	
0202	小浜堡	海鶴小浜堡 他	丘陵	
0203	茶園ヶ尾堡	海鶴茶園ヶ尾	山頂	
0204	平常の陣	牛根陣陣ノ原	丘陵	
0205	古城	株原市の園	丘陵	
0206	諏訪城	新市諏訪 他	丘陵	
0207	中俣城	中俣射場松 他	丘陵	
0208	二川城	牛根二川辺郡幸田	平地	
0209	境城	牛根境城 他	丘陵	
0210	下本城	芝原港平	丘陵	
0211	大始良城	大始良町城内	小台地	←←
0212	鹿屋城	北田町中名	台地	←←
0213	鹿屋一谷城	西蔵川一ノ谷	山麓	
0214	鹿屋古城	新生町古	独立丘陵	
0215	鹿屋元城	王子町山中	台地	
0216	木谷城	花岡町城山	独立丘陵	
0217	久志城	西原町久志城	独立丘陵	
0218	飯屋城	下高隈町飯屋	台地	
0219	古前城	中名古前城	台地	
0220	志々目城	獅子目町東陣ノ尾	山麓	
0221	白崎城	白崎町白崎	台地	
0222	陣之尾堡	南町山下	山頂	
0223	瀬戸城	蔵川町瀬戸口	台地	
0224	高隈城	上高隈町重田	小丘陵	
0225	高須城	高須町城山	小丘陵	
0226	高須古城	高須町古城	小丘陵	
0227	茶臼城	南町福山 他	丘陵	
0228	西俣城	南町内城	台地	
0229	野里城	野里町大津	台地	
0230	長谷城	蔵川町長谷口	丘陵	
0231	浜田城	浜田町下浜田	台地	
0232	日ヶ城	上蔵川芝原日ヶ城	台地	
0233	船隈城	川西町船隈	台地	
0234	古江城	古江町小城	丘陵	

番号	名称	所在地	立地	備考
0235	横山城	福山町岡元	丘陵	
0236	陣城	永小原	丘陵	
0237	荒平城	天神町古城	丘陵	
0238	金比羅山堡	大始良町新金比羅山	丘陵	
0239	小牧城	阿原小牧城	台地	
0240	年貫城	南町年貫	台地	
0241	山ヶ城	南町山下ヶ城	山頂	
0242	宮前城	川東町宮ノ前	台地	
0243	志々目西城	獅子目町西	台地	
0244	観音山堡	高須町北高須	小丘陵	
0245	大塚山堡	南町大塚山	丘陵	
0722	新井氏古城	下小原園田	平地	
0723	松崎城	小原松崎	丘陵	
0724	北原城	細山田平瀬	台地	
0725	串良城	阿崎麓	丘陵	
0726	細山田城	細井山田生栗原	台地	
0727	小原城	小原城ヶ崎	台地	
0728	白寒水城	下小原白寒水	台地	
0729	岡崎城	岡崎城ヶ鼻	台地	
0730	中山城	小原中山	台地	
0731	肝付氏古城	阿崎西ノ丸	平地	
0732	稻村城	下小原寒水	丘陵	
0733	中村城	岡崎竹之内	丘陵	
0734	北原氏居館	細山田北原	平地	
0735	霧島城	細山田下中	丘陵	
0736	別府ヶ城	別府ヶ城	平地	
0737	曲之城	新川西曲城	平地	
0738	堀込城	新川西堀込	平地	
0739	笹塚城	新川西笹塚	平地	
0740	下伊倉城	新川西城ノ山 他	平地	
0741	岩弘城	岩弘跡道 他	丘陵	
0742	荒田城	北方幸田	丘陵	
0743	川上城	江平川上	丘陵	
0744	岸良城	岸良字都	丘陵	
0745	飯田城	小野仁田山崖入	丘陵	
0746	真福寺堡	岸良大富田	丘陵	
0747	宇都の陣	前田堂園	山頂	
0748	大平城	後田大平	丘陵	
0749	御幣園城	前田大島	丘陵	
0750	合戦田陣	前田上西方	丘陵	
0751	求摩陣	新富下永山	丘陵	
0752	検見崎城	後田検見崎	平地	
0753	高山城	新富本城	山頂	
0754	塚崎城	野崎塚崎	平地	
0755	堂園の陣	前田長能寺	丘陵	
0756	富山城	富山堂迫	丘陵	

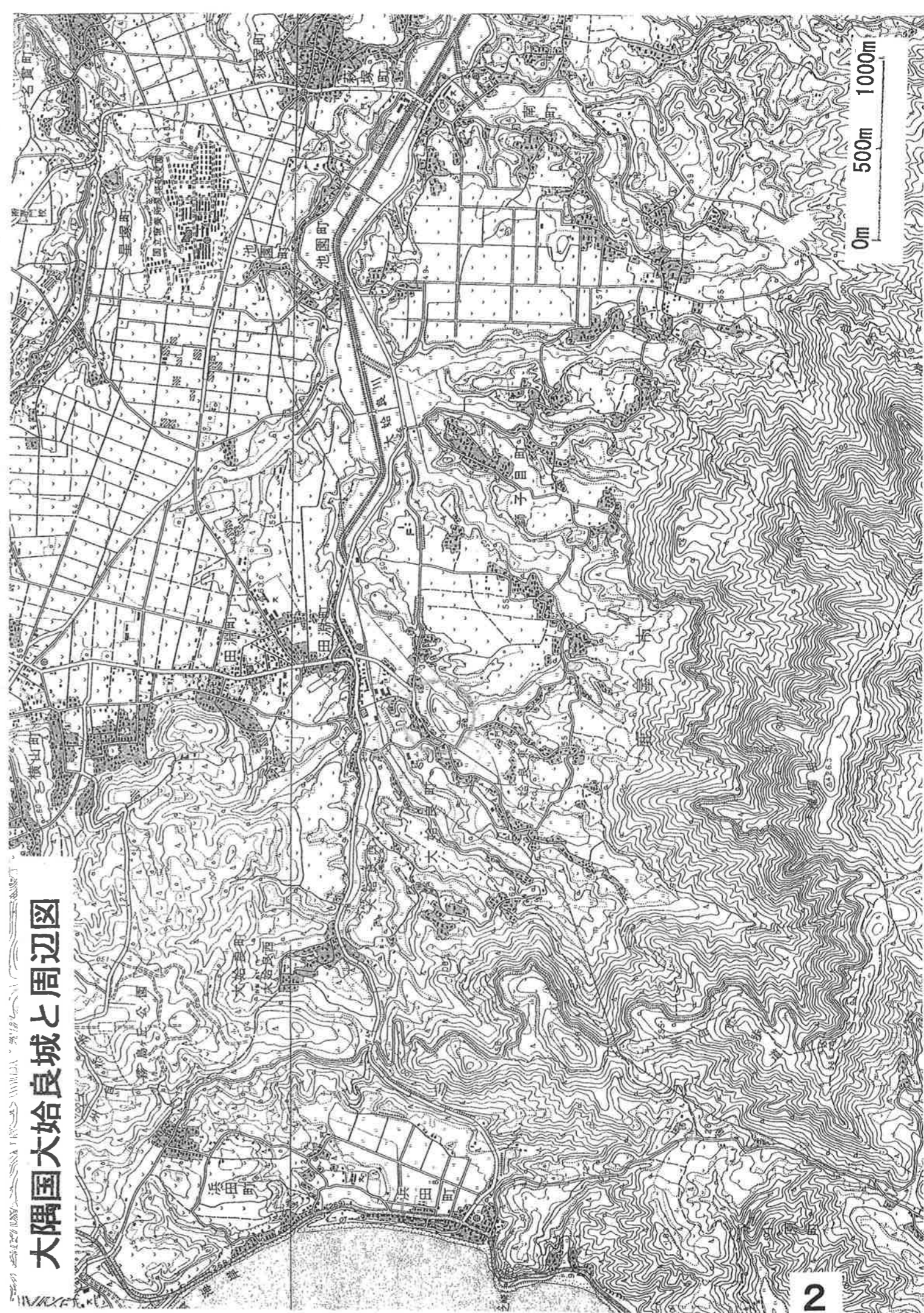
番号	名称	所在地	立地	備考
0757	永山城	新富川路	丘陵	
0758	波見城	波見溝	山麓	
0759	宮下城	宮下堀内	丘陵	
0760	柳井谷の陣	新富	山麓	
0761	弓張城	新富城山 他	丘陵	
0762	和田城	野崎和田	山麓	
0763	波見の陣	波見牟例	山麓	
0764	天道山堡	野崎天道山	丘陵	
0765	松下城	上名西橋 他	丘陵	
0766	井上城	下名井神島 他	丘陵	
0767	山古城	龍崎 他	丘陵	
0768	筒ヶ迫城	上名筒ヶ迫 他	丘陵	
0769	岩下城	龍崎野 他	丘陵	
0770	馬場中原城	池田馬場中原	丘陵	
0771	高城	神ノ川城ヶ崎	丘陵	
0772	高尾山堡	宿利原高尾	丘陵	
0773	崩原城	馬場崩原	丘陵	
0774	神之川城	神ノ川ノ川	丘陵	
0775	国見城	川北城内	丘陵	
0776	水流城	川南流ノ島 他	丘陵	
0777	瀬脇城	川南丸塚	丘陵	
0778	富田城	川南古城 他	丘陵	
0779	野間城	川北野間城 他	丘陵	
0780	山田城	山本高城	丘陵	
0781	建部城	川北建部城	丘陵	
0782	田代城	龍崎城内 他	丘陵	
0783	原田城	龍崎田城	丘陵	
0784	諏訪城	龍崎ヶ迫	丘陵	
0785	鶴園城	鶴園城ノ尾 他	丘陵	
0786	高木城	鶴小崎	丘陵	
0787	辺塚城	辺塚中郷 他	丘陵	
0788	伊佐敷城	城ヶ崎 他		
0789	馬籠城	馬籠城ヶ崎	台地	
0790	古里城	釋城ヶ原	台地	
0791	萩崎城	軍城ノ下 他	台地	

0m 200m 500m 1000m 2000m

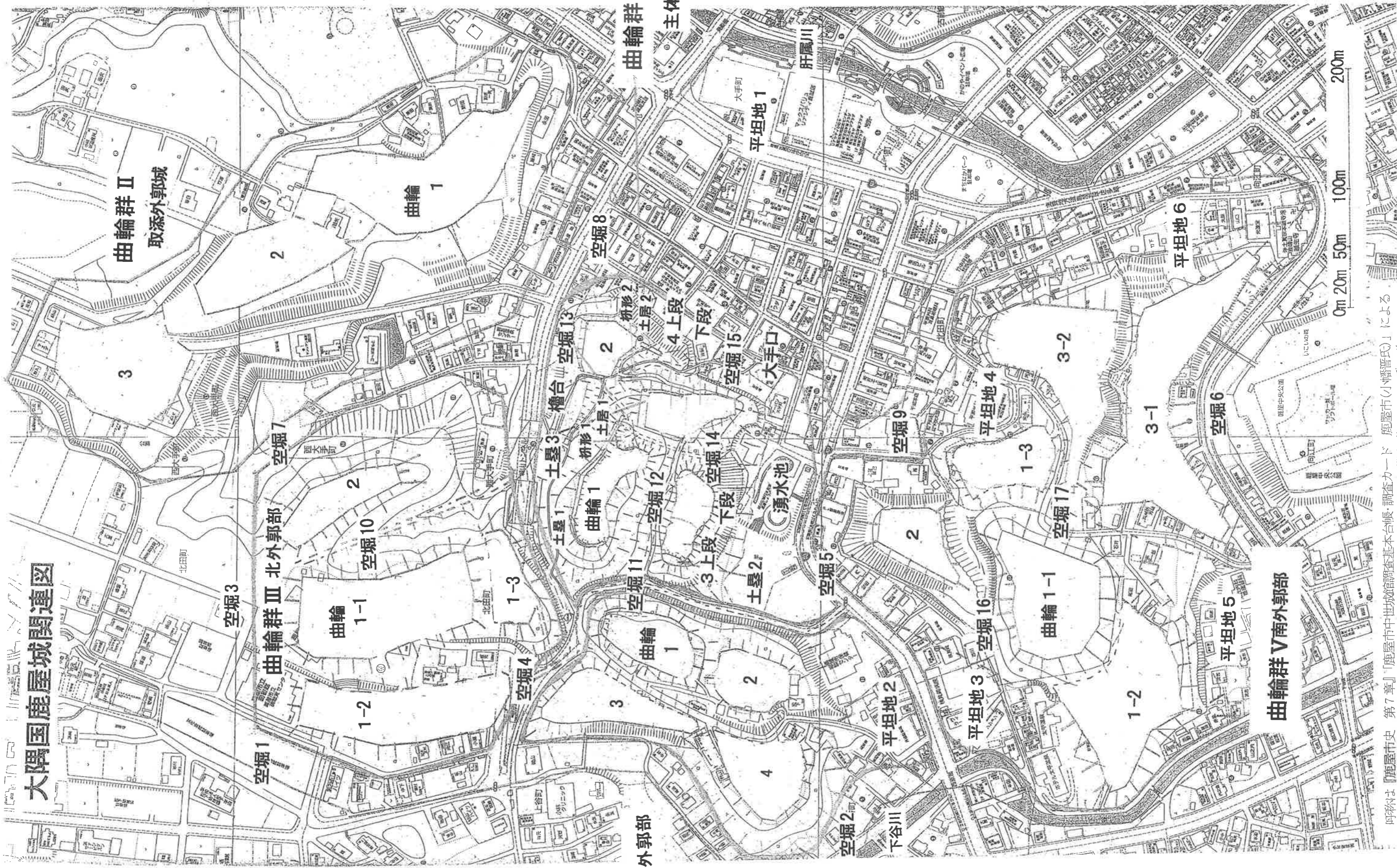
大隅国鹿屋城と周辺図



大隅国大始良城と周辺図



大隅国鹿屋城関連図



曲輪群IV

中外郭部

曲輪群 I

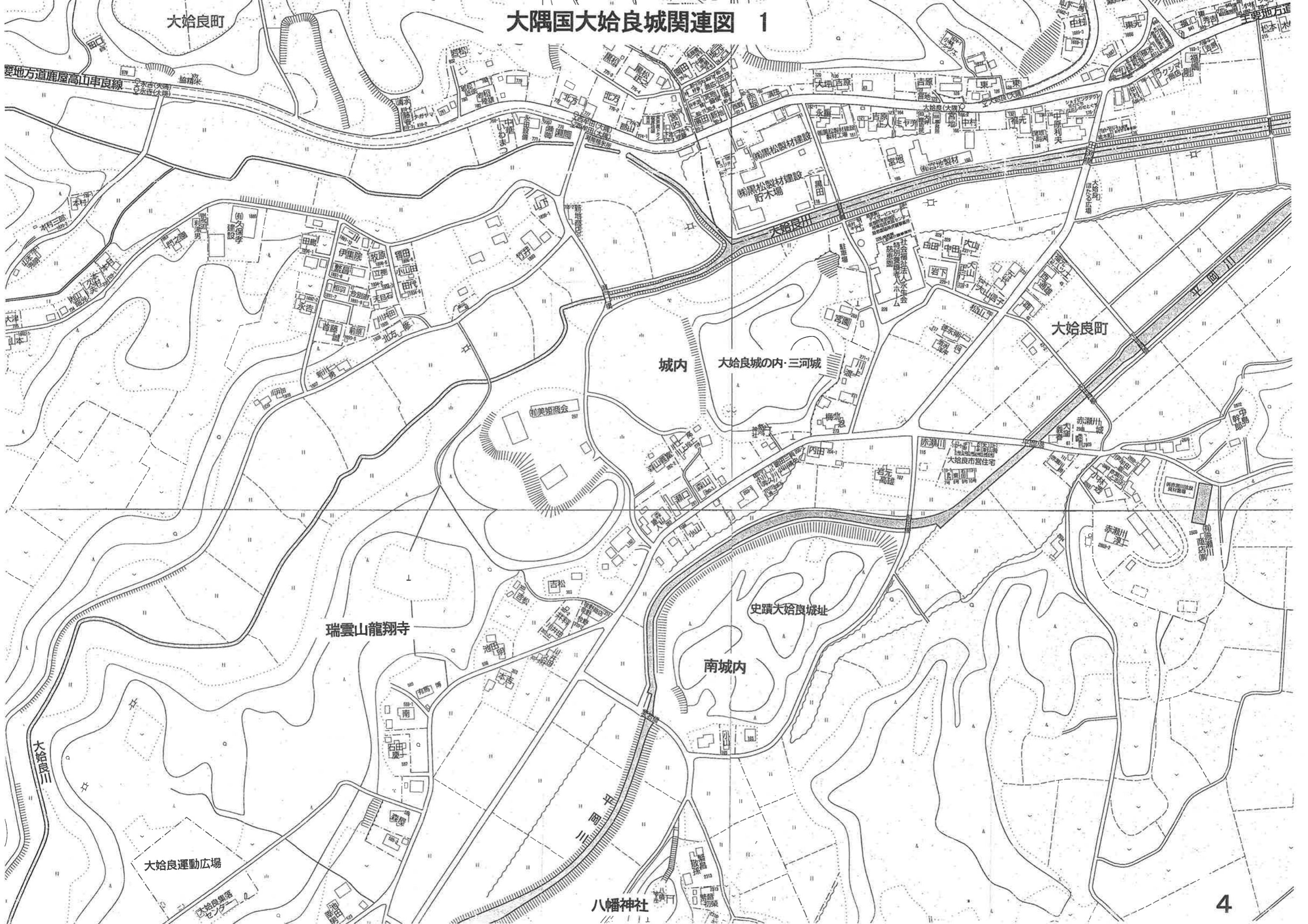
主体部

曲輪群 V 南外郭部

資料は『鹿屋市史 第7章』鹿屋市中世城調査基本台帳・調査カード 鹿屋市(小幡晋氏)による

本丸 二之丸 中城 高城 松尾城 大明城 今城 取添城

大隅国大始良城関連図 1



大始良町

要地方道鹿屋高山串良線

城内 大始良城内・三河城

大始良町

瑞雲山龍翔寺

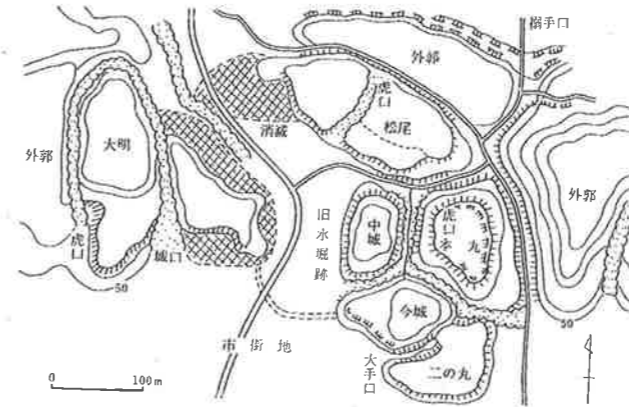
史蹟大始良城址

南城内

大始良運動広場

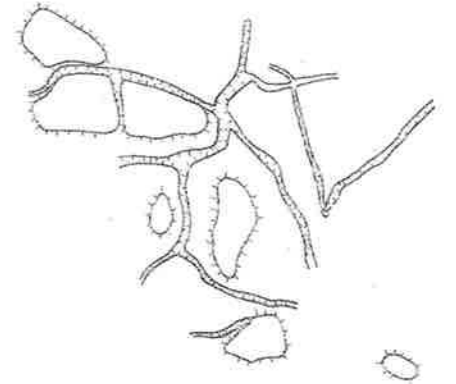
八幡神社

A 大隅国鹿屋城要図・略測図



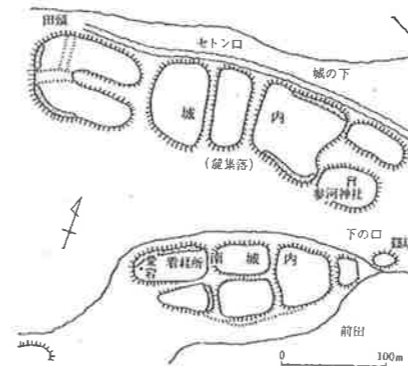
3.3 鹿屋城要図

『日本城郭大系・18 鹿児島県』445頁 1979.2



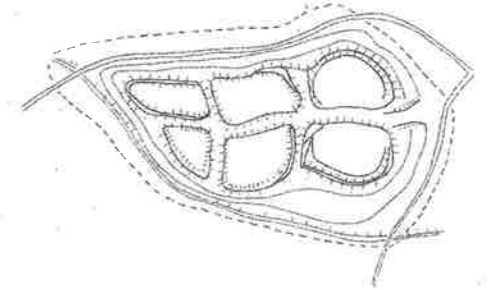
『鹿児島県の中世城館跡』183頁1987.3

B 大隅国大始良城要図・略測図

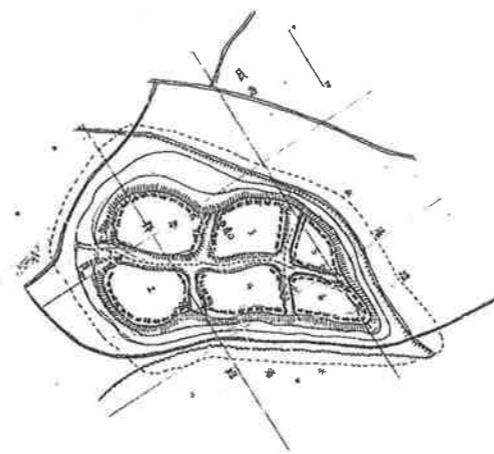


31 大始良城要図

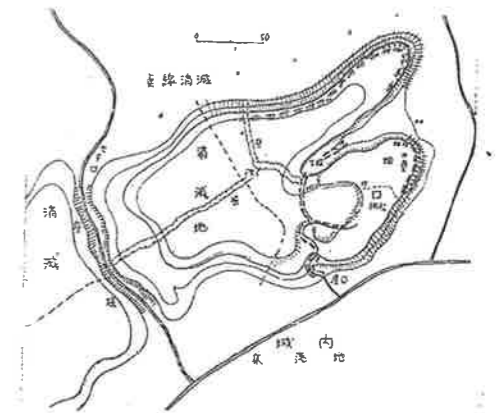
『日本城郭大系・18 鹿児島県』443頁 1979.2



『鹿児島県の中世城館跡』183頁1987.3



『鹿屋市中世城館調査基本台帳・調査カード 大始良城(小幡晋氏)』



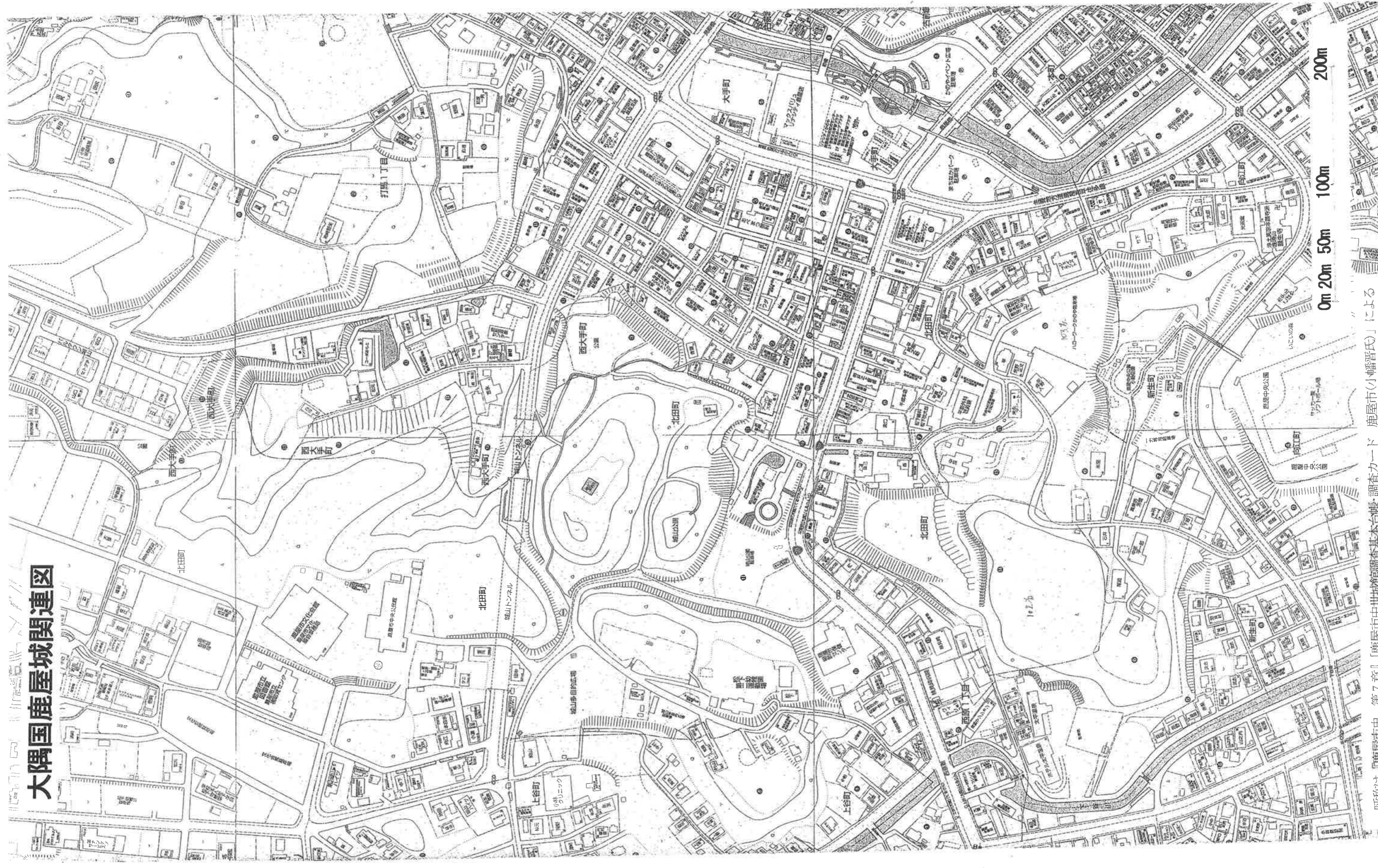
『鹿屋市中世城館調査基本台帳・調査カード 大始良城(小幡晋氏)』

肝付氏の略系図

川崎大十氏『さつまの姓氏』

肝付 きもつき 肝属郡から興る。島津・渋谷氏と並んで南九州の大族であって、永く勢力を保ち従って支族が甚だ多い。大伴姓で、天八百万魂尊(天八百万魂尊以前は赤塚氏参照)―高皇産靈尊―天忍日命―天津彦日中咋命―天津日命―道臣命―味日命―雅日命―大日命―角日命―豊日命―健日命―大伴武持―室屋―談―金村―阿被布古―磐―咋子―長徳―安磨―旅人―家持―古磨―継人―国道―善男―仲庸―仲兼―兼遠―兼行―行貞―兼貞―兼俊と続く。始祖兼行は安和元年四月七日薩摩掾(薩摩国総追捕使)に任ぜられ、翌二年八月一八日下向して鹿児島郡神食村(鹿児島市伊敷町)の伴掾御館(後世の玉里島津家別邸の地)に居住。孫兼貞は長元九年九月九日肝属郡弁済使となり肝属に移り、内之浦(肝属郡内之浦町)、串良(肝属郡串良・東串良町)・始良(肝属郡吾平町)・高山(肝属郡高山町)・鹿屋・大始羅・高隈・花岡(以上鹿屋市)・百引(曾於郡輝北町)等の諸郷を領し、高山を治所として弓張城に拠り肝付と称し、諸県郡三俣院(宮崎県北諸県郡三股町付近)をも併領。一説右の事は子兼俊の事蹟とし、本稿では兼俊を肝付初代とする。一七代兼亮に至り天正二年島津義久に降り、一八代兼道の時天正五年高山一邑のみを与えられ、内之浦・串良・始良・鹿屋・大始良・高隈・西俣(鹿屋市)・百引・松山(曾於郡松山町)・大崎(曾於郡大崎町)・志布志・安楽(以上曾於郡志布志町)・恒吉(曾於郡大隅町)・平房(曾於郡輝北町)・福山(始良郡福山町)・不門原(肝属郡根占町門原か)等を没収、さらに同八年二月二十四日には阿多(日置郡金峰町)に移され、一二万石から一万石に減封され、初代兼俊以来一八代五九〇余年にして封邑の地を失った。その後兼道は島津義久に臣従し、その子兼幸に至り鹿児島に移され高三〇二石余。二二代年兼に至り家格代々小番、高一〇〇石。子孫鹿児島市吉野町住。兼俊―兼経―兼益―兼員―兼石―兼藤―兼尚―兼隆―秋兼(三俣兼重子)―兼氏―兼元―兼忠―兼久(兼忠三男兼連長子)―兼興(弟)―兼統―良兼―兼亮(弟)―兼道(弟)―兼幸―兼康(新納忠時流忠秀嫡子)―兼親―年兼―経兼―治兼―兼群(比志島範幸二男)―兼命(九良賀野生母二男)―兼明(検見崎五右衛門嫡子)―兼施―兼寛―兼亮―兼冬―兼達と続く。六代兼藤は元享二年三月四日名越氏に殺害。八代兼隆は南朝に属し延元元年五月六日、島津貞久・伊集院忠国等と戦い落城戦死。一八代兼道は慶長五年九月一五日美濃国関ヶ原(岐阜県不破郡関ヶ原町)で戦死。二二代兼親は普請・勘定奉行、二三代年兼は屋久島押、二三代経兼は甞島地頭職等を歴任。二六代兼命は文政二年大島に渡り、同九年六月一三日字検(大島郡宇検村)で没。三〇代兼亮は第四百四十七銀行鹿屋出張所長、三二代兼達は曾於郡医師会立病院院長を歴任。

大隅国鹿屋城関連図



呼称は「鹿屋市史 第7章」鹿屋市中世城跡調査基本台帳「調査力一」鹿屋市(小幡晋氏)による